南丹市総合防災訓練

南丹市の危機管理、防災体制の現状は

活緑クラブ
川勝　儀昭 議員

市長 ハード・ソフト両面から防災システムを整備

問 風水害、地震などさまざまな災害に対し危機管理体制の整備が必要である。全国各地で集中豪雨や大規模地震による災害が頻発している。花折断層帯など、本市に影響があるとされる多くの活断層が存在している。特に殿田・神吉・越畑断層は、府の推定調査によるとマグニチュード7・2の地震が想定され、南丹広域振興局管内では、死者数７５０名、負傷者５５７０名と予測されている。こういった地震災害や風水害に対し、災害発生時の応急対策や早期の復旧対策を行うため、最大限の危機管理体制を整える必要がある。本市の防災、危機管理体制の現状と、11月に実施された南丹市総合防災訓練の成果と課題について市長の所見を伺う。

市長 災害発生時には、南丹市地域防災計画に基づく災害応急対策計画により行動する。さまざまな災害に備え、ハード（防災施設整備）、ソフト（訓練、情報、啓発）両面から防災システムの整備をはかり、最小限の被害に抑えるよう努力する。総合防災訓練は２千世帯、２５００人が参加頂き、避難訓練などを行った。メイン会場では、20団体参加のもと模擬訓練を行い、技術の向上と緊密な連携もはかれた。地元への周知時期や要援護者名簿の活用などの課題や反省点もあるが、十分検証し今後に向け努力したい。

裏金処理、補助金目的外使用の実状は

問 京都府をはじめ全国各地で、行政の裏金処理や補助金の目的外使用が指摘されている。旧町を含め、本市の現状は。

市長 南丹市においては、裏金処理や、補助金の目的外使用については、現在のところ発覚しておらず、ないと認識している。

美山の奥地の豪雪は１ｍを越えた

過疎対策の予算化を

丹政クラブ
村田　正夫 議員

市長 過疎地域が安心して暮らせるように

問 美山・日吉の過疎地域を抱える南丹市は、有利な過疎債を活用し、来年度予算に過疎への手立てを盛り込むべきである。

来年度で切れる措置法について、新法への訴えと働き掛けが必要である。

また、総務省が打ち出した「集落支援員制度」を、振興会制度に活用するなど、財源確保に努力すべきではないか。

市長 過疎計画の着実な実施が根底にあるので、過疎地域に安心して人が暮らせるよう努力したい。

特別措置法はぜひとも必要であり、延長なりの要望を行っている。

集落支援員制度を、美山の振興会制度に活用するなど財源確保の努力を図っていきたい。

山村留学

問 児童数が増加、Ｉターンが定着、都市交流が進み知井地区が活性化している。

府下唯一で、南丹市を特徴づけるユニークな取り組みとして、市政の中にしっかり位置づけ、より強固な応援体制を確立すべきである。振興会が事務局を持てばよいのではないか。

市長 大きな成果を上げられた知井の皆様に、深い敬意を表します。

応援体制の中でこの実が更に大きくなるよう、努力します。

ケーブルテレビ

問 ９チャンネルへの関心は高く、「退屈する、面白くない」の声を聞く。

６人のスタッフでは厳しい。特派員制度の検討、市職員の参画、学校担当者の育成、ボランティアの活用などが必要である。

市長 少人数での運営が実態である。せっかくのＣＡＴＶ網を有効活用すべく、検討を進めたい。

提案いただいた特派員制度など、有効な手立てだと受け止めている。

総務常任委員会

10月7・8日

平成19年度一般、特別会計の決算審査。

11月6・7日

愛知県新城市において、めざせ明日のまちづくり事業と滋賀県米原市において、デマンド型乗合タクシー運行事業の行政視察を実施しました。

『まちづくり事業』

平成18年度から地域の特性を生かした活動や、市民グループが行う公益活動に市が応援する取組みがなされており、市民協働のまちを創る施策の調査を行いました。

『乗合タクシー運行事業』

交通バス路線の廃止を機に、交通空白地の解消や、交通弱者対策として、デマンド型乗合タクシーの運行がなされており、今後の南丹市の地域公共交通のあり方について調査を行いました。

11月3日

市が長期に保有している住宅用地や、工場誘致用地などの現地調査と、殿田小学校改築工事、美山中核整備事業の調査を行いました。

12月11日

12月定例会で提案された9議案について審査を行いました。

めざせ明日のまちづくり事業を行政視察

産業建設常任委員会

12月22日

本委員会に付託された18議案について審議を行った。議案第１２４号上水道事業給水条例の改正から第１２９号下水道事業受益者分担金徴収条例の改正までの６議案、いわゆる「上下水道料金の統一について」基本的な考え方が示された。市水道料金、下水道使用料改定については、旧町でそれぞれ進めてきた上水道・簡易水道・下水道事業を南丹市が引き継ぎ推進してきた。しかし料金については合併協議会段階では、調整協議はしてきたものの、異なっていた上下水道料金、受益者負担金、分担金、これらを合併から5年間は現行の体系でいくことになっていた。これを受けて平成19年6月、南丹市水道審議会を立ち上げ、市長から諮問をし、平成20年2月に答申が出た。まず水道料金については明確で、安定的な料金水準を定める方法として総括原価方式を、下水道料金については、料金を低く抑えるよう、維持管理費を使用料で回収していくというもの。残りの農林商工部、土木建築部等の12議案合わせ全て可決した。

船岡浄水場

厚生常任委員会

11月6・7日

岐阜県瑞浪市の子育て応援プランの視察を行い、親が就労しやすい保育環境づくり・病後児保育など多様な保育事業の説明を受けた。現金支給とは異なる多様な子育て支援施策など、子育て世代のニーズを先取りした施策が行われていた。

ダイオキシン類の規制値オーバーや悪臭発生など、周辺地域の環境保全と一般廃棄物処理事業を検証する中で、財政負担と環境対策を兼ね備えた施設を選定し、7日に愛知県田原市の炭生館を訪れた。

自治体が事業責任をもち、民間企業の技術と資金を活用するＰＦＩ手法（特別目的会社）を採用し、可燃ゴミを炭化させ、副産物の炭を溶鉱炉に活用する循環型施設で、従来の廃棄物処理施設と異なり臭気を感じさせない環境に優しい運営が行われていた。

12月15日

委員会を開催し、第４回定例会で付託された議案の審査と、生ごみ回収を祝日及び振替休日回収の実施に関する請願書の審査を行い、既に検討を進めている事から採択する事とした。

子育て応援プランを行政視察